

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年8月22日(2013.8.22)

【公表番号】特表2012-532197(P2012-532197A)

【公表日】平成24年12月13日(2012.12.13)

【年通号数】公開・登録公報2012-053

【出願番号】特願2012-519634(P2012-519634)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/16 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 K 31/192 (2006.01)

A 6 1 K 31/137 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/16

A 6 1 P 25/28

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 31/18

A 6 1 K 31/192

A 6 1 K 31/137

A 6 1 P 3/10

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月2日(2013.7.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

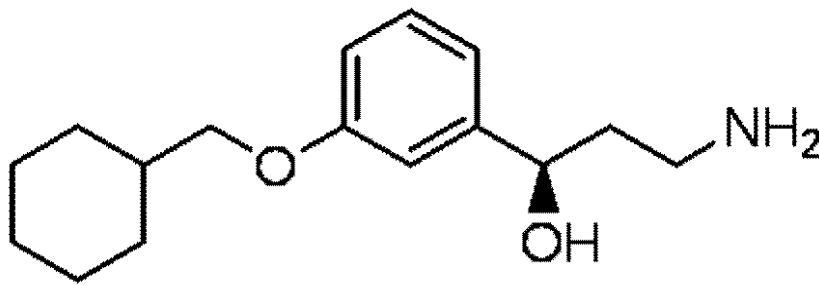
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式

【化 1】



を有する非レチノイド化合物（R）- 3 - アミノ - 1 - （3 - （シクロヘキシルメトキシ）フェニル）プロパン - 1 - オールを、該化合物の血漿濃度が $0.3 C_{max}$ に減少した後約 4 時間から約 36 時間までの期間に約 50 % 未満の正規化網膜電図応答をもたらす量で含む、加齢黄斑変性の治療に使用するための経口医薬製剤。

【請求項 2】

正規化網膜電図応答が約 5 % から約 15 % まで、約 15 % から約 25 % まで、又は約 25 % から約 35 % までである、請求項 1 に記載の経口医薬製剤。

【請求項 3】

前記期間が前記非レチノイド化合物の投与後約 4 時間から約 10 時間まで、前記非レチノイド化合物の投与後約 10 時間から約 16 時間まで、前記非レチノイド化合物の投与後約 16 時間から約 24 時間まで、又は約 24 時間から約 36 時間までである、請求項 1 又は 2 に記載の経口医薬製剤。

【請求項 4】

前記化合物が、2 日目よりも 1 日目において大きな正規化網膜電図応答をもたらす、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の経口医薬製剤。

【請求項 5】

前記化合物が、1 日目よりも 2 日目において大きな治療応答をもたらす、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の経口医薬製剤。

【請求項 6】

前記治療応答が網膜電図によって決定される、請求項 5 に記載の経口医薬製剤。

【請求項 7】

前記非レチノイド化合物の量が約 4 mg から約 100 mg までである、請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の経口医薬製剤。

【請求項 8】

前記非レチノイド化合物の量が約 75 mg、約 60 mg、約 40 mg、約 20 mg、約 7 mg、又は約 5 mg である、請求項 7 に記載の経口医薬製剤。

【請求項 9】

網膜電図の錐体応答幅が処置前の幅の約 10 % 以内に、処置前の幅の約 20 % 以内に、又は処置前の幅の約 30 % 以内に留まる、請求項 1 ～ 8 のいずれかに記載の経口医薬製剤。

【請求項 10】

徐放固体剤形である、請求項 1 ～ 9 のいずれかに記載の経口医薬製剤。

【請求項 11】

投与後の血漿 T_{max} が投与後約 12 時間で起こる、請求項 9 に記載の経口医薬製剤。

【請求項 12】

前記非レチノイド化合物の量が夜間視の顕著な欠損をもたらさない、請求項 1 ～ 11 のいずれかに記載の経口医薬製剤。

【請求項 13】

前記非レチノイド化合物の量が明所視の顕著な喪失をもたらさないか、又は明所状態に

おける感受性に対して検出可能な効果をもたらさない、請求項 1 ~ 12 のいずれかに記載の 経口医薬製剤。